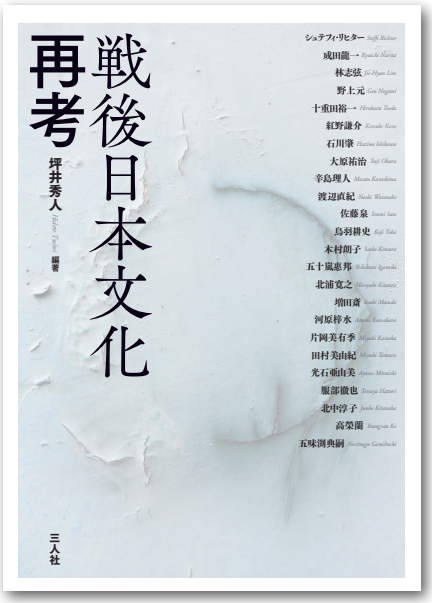
〈戦後〉をとらえなおすことは、〈現在〉を問うことだ。

戦後日本文化再考

坪井秀人 *Tsuboi Hideto* 編著



A5判上製・約600頁
定価8,000円＋税
2019年10月刊行
ISBN978-4-86691-229-5

刊行のことば

いま戦後七十年をこえて、〈戦後〉という時代概念とその思想的な意義の見直しが迫られている。〈永すぎた戦後〉を支えてきた戦後憲法と戦後民主主義・平和主義に対する新自由主義からの攻撃は戦後五十年の境を跨いだ一九九〇年代後半から始まっているが、政権交代とその挫折、〈三・一一〉（東日本大震災）の衝撃の後に再登板した安倍晋三政権は、中曽根政権がうたった〈戦後政治の総決算〉を受け継ぎつつ、第一次内閣の時に安倍によって唱えられた〈戦後レジームからの脱却〉を実行に移しつつある。冷戦の世界秩序によって守られてきた五十五年体制が冷戦の崩壊とともに瓦解した後に、人文学や思想研究の多様な領域で日本の戦後の問い直しを行う機運が高まったが、いまや戦後の批判的総括の主導権は歴史修正主義の側に乗っ取られてしまった観がある。国家主導による〈戦後〉の再検討と歴史の再構築は、教育や学問にもその影響が波及してきており、人文学の弱体化と従属化を引き起こし、〈三・一一〉を受けとめて行われなければならないはずの〈戦後〉の問い直しを停滞させてきた。

本書は歴史・文学・芸術・思想などの人文学分野から、右のような危機意識のもとに、〈戦後〉を終わらせようとする思考がどのような文脈を持っているのかを歴史的に考察する試みである。特に〈戦後文化〉に焦点をあてて、〈戦後〉という時代概念の有効性を再審し、人文学に関わる今日の文化的・社会政治的な状況にどのように向き合えばよいのかを議論する。

坪井秀人

執筆者

坪井秀人 *Hideto Tsuboi*
国際日本文化研究センター教授

シュテフィ・リヒター *Steffi Richter*
ライプツィヒ大学教授

成田龍一 *Ryuichi Narita*
日本女子大学教授

林　志弦 *Jie-Hyun Lim*
西江大学校教授

野上　元 *Gen Nogami*
筑波大学准教授

十重田裕一 *Hirokazu Toeda*
早稲田大学教授

紅野謙介 *Kensuke Kono*
日本大学教授

石川　肇 *Hazime Ishikawa*
国際日本文化研究センター助教

大原祐治 *Yuji Ohara*
千葉大学教授

辛島理人 *Masato Karashima*
神戸大学准教授

渡辺直紀 *Naoki Watanabe*
武蔵大学教授

佐藤　泉 *Izumi Sato*
青山学院大学教授

鳥羽耕史 *Koji Toba*
早稲田大学教授

木村朗子 *Saeko Kimura*
津田塾大学教授

五十嵐惠邦 *Yoshikuni Igarashi*
バンダービルト大学教授

北浦寛之 *Hiroyuki Kitaura*
セインズベリー日本藝術研究所

増田　斎 *Itsuki Masuda*
総合研究大学院大学

河原梓水 *Azumi Kawahara*
日本学術振興会特別研究員

片岡美有季 *Miyuki kataoka*
立教大学大学院文学研究科

田村美由紀 *Miyuki Tamura*
総合研究大学院大学

光石亜由美 *Ayumi Mitsuishi*
奈良大学教授

服部徹也 *Tetsuya Hattori*
大谷大学助教

北中淳子 *Junko Kitanaka*
慶應義塾大学教授

高　榮蘭 *Youngran Ko*
日本大学教授

五味渕典嗣 *Noritsugu Gomibuchi*
早稲田大学教授

三人社

YOSHIDA YAMA SOSHO
吉田山叢書
002

戦後日本文化再考

目　次

序　論　坪井　秀人

第1章　〈戦後〉とは何か

ポスト戦後日本――ベンヤミンの歴史概念を手がかりにして――　シュテフィ・リヒター（Steffi Richter）
近代のなかの「戦後」／「戦後」のなかの明治　成田　龍一
奇妙な併置――マキシミリアノ・コルベと長崎被爆者の神聖化　林　志弦〔訳＝渡辺直紀〕

第2章　占領と検閲

再演される「東京裁判」～1970/80年代の江藤淳と映画『東京裁判』　野上　元
民間情報教育局の調査対象になった文芸雑誌と占領期検閲をめぐる序説　十重田裕一
三味線と「間の山節」――内田吐夢における「中国体験」の痕跡　紅野　謙介
反転する井伊直弼　「花の生涯」執筆理由と戦争体験　石川　肇
地方を語る／地方で語る　地方雑誌から見る占領期　大原　祐治

第3章　開発主義とアジア

開発主義と東南アジアへ向かう知　辛島　理人
松本清張『北の詩人』再読　林和と朝鮮文学　渡辺　直紀
李珍宇の文学的形象と「半日本人」の思想と歴史の開発　『月の輪古墳』をめぐって　佐藤　泉
　鳥羽　耕史

第4章　戦争の記憶と戦後社会

敗戦後の記憶を掘り起こす――未来の「引揚げ文学」としての津島佑子『葦舟、飛んだ』　木村　朗子
美しき遺品たち　石内都『ひろしま』と戦後日本　五十嵐惠邦
戦後日本映画の記録と記憶　映画『君の名は』（1953～1954）の生産／消費のプロセス　北浦　寛之
〈踏絵〉と〈転向〉の交差　遠藤周作『沈黙』と大阪万博キリスト教館出展問題　増田　斎

第5章　セクシュアリティの戦後

マゾヒズムと戦後のナショナリズム　沼正三「家畜人ヤプー」をめぐって　河原　梓水
「オルガスム」をめぐる「神話」の解体　三島由紀夫「音楽」論　片岡美有季
傷ついた男性性を問い直す　谷崎潤一郎「残虐記」におけるクィアな欲望の動態を手がかりに　田村美由紀
大江健三郎『セヴンティーン』と「トルコ風呂」　〈政治〉と〈メディア〉と〈性風俗〉の時代　光石亜由美
日本におけるエイズ文学　服部　徹也

第6章　継続する〈戦後〉

自己参加型〈観察／監視〉医療の誕生　戦後日本の健康診断　北中　淳子
女たちの記憶と翻訳政治――多和田葉子『飛魂』を手がかりに――　高　榮蘭
足尾銅山と暗闇の修辞学　「負の遺産」をいかに語るか　五味渕典嗣

吉田山叢書のご案内

YOSHIDA YAMA SOSHO
吉田山叢書

新しい叢書を立ち上げました。個性豊かで清新で、後世に残るシリーズを目指し、若い研究者の皆様の原稿を募集しております。お気軽にお問い合わせください。

- 文学・歴史・芸術・哲学・教育など主に人文科学分野
- 論文・評論・随想・物語などのジャンルは不問です
- 博士論文の出版や共著でも結構です

三人社
〒606-8316
京都市左京区吉田二本松町４　白亜荘
電話 075-762-0368
FAX 075-762-0369
http://3ninsha.com/

ご注文は書店様または直接上記までお申し込みください。